

千の葉の芸術祭イベント

ななめな学校連続ワークショップ

ななめな学校のワークショップとして、アーティストやデザイナーを先生に迎え、さまざまなメディアを使った新しい表現に挑戦し、最後に発表会や作品展示を行います。

日程 ワークショップ=6～7月 全5回
発表会・作品展示=8～9月

会場 生涯学習センターなど

内容 ①身の回りのもので衣装を作って変身します。
②脚本を作って演劇をします。
③五感を使って映画を作ります。
④写真と文章で出来事や感じていることを表現します。



ななめな学校
Chiba School for Arts and Media

対象 ①②小学3～6年生、③④中学生以上の方

定員 各10人程度

申込方法など詳しくは、[ななめな学校](#)

千の葉の芸術祭

千葉市では、文化芸術の魅力を広く発信するため、7～9月に芸術祭を開催します。

市民や市のスポットを被写体とした写真作品を展示する「写真芸術展」や、感じながら考える創造の学びの場である「体験・創造ワークショップ（ななめな学校）」、伝統文化の鑑賞・体験会や光のインスタレーションなどのイベントを行う「伝統文化・新しい文化の発信」の三部門で構成しています。

詳しくは、[千の葉の芸術祭](#)

問文化振興課 ☎245-5961 **FAX**245-5592

作ろう！ゴーヤで緑のカーテン

ゴーヤの種に緑のカーテンの作り方を付けてプレゼントします。夏の暑さを和らげる緑のカーテンを自宅で作ってみませんか。

日程 4月5日(月)から

配布場所 区役所地域振興課

定員 各区先着400人

問緑政課 ☎245-5775 **FAX**245-5885



附属機関の委員を募集

①社会福祉審議会高齢者福祉・介護保険専門分科会委員

高齢者福祉や介護保険の運営について、意見を伺います。

問介護保険管理課 ☎245-5064 **FAX**245-5623

kaigohokenkanri.HWS@city.chiba.lg.jp

②学校教育審議会委員

学校教育に関する重要な施策について審議します。

問教育委員会企画課 ☎245-5908 **FAX**245-5988

kikaku.EDG@city.chiba.lg.jp

③健康づくり推進協議会委員

市民の健康づくりを推進する施策について調査・審議します。

問健康推進課 ☎245-5223 **FAX**245-5659

suishin.HWH@city.chiba.lg.jp

④環境審議会委員

環境の保全や創造について調査・審議します。

問環境総務課 ☎245-5234 **FAX**245-5557

somu.ENP@city.chiba.lg.jp

⑤国民健康保険運営協議会委員

国民健康保険事業の運営に関する重要事項を審議します。

問健康保険課 ☎245-5143 **FAX**245-5544

kenkohoken.HWM@city.chiba.lg.jp

任期 ①5月下旬～2024年3月31日、②6月1日・③④7月1日から2年間、⑤7月1日から3年間

開催予定 ①年6回程度、②年2～4回程度、③年1～2回程度、④年3回程度、⑤年2回程度

応募資格 ①市内在住で40歳以上の方、②～④市内在住・在勤・在学で18歳以上の方（③は健康づくりに関する活動を行っている方）、⑤市国民健康保険被保険者で保険料・延滞金を完納している18歳以上の方（任期中に後期高齢者医療制度への移行が見込まれる方を除く）

*いずれも、市の議員・職員またはほかの附属機関の公募委員の方は申し込みません。

募集人数 ①4人（うち2人はあんしんケアセンター等運営部会委員を兼務）、②④2人、③⑤4人

報酬 規定により支給

小論文テーマ ①高齢者福祉・介護保険制度について思うこと（800字程度）、②これからの千葉市の学校教育（800字程度）、③市民一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組むためには（800字程度）、④千葉市の環境について思うこと・持続可能な社会の実現についてからいずれかを選択（1,000字程度）、⑤国民健康保険に期待すること（800字以内）

応募方法 ①4月21日(水)・②③5月7日(金)・⑤4月30日(金)必着、④5月6日(休)消印有効。A4判用紙に必要事項のほか、委員名称、応募理由、生年月日、性別、①③④は職歴、①⑤は職業、⑤は被保険者番号を明記し、小論文を添付して、①③～⑤は〒260-8722千葉市役所（問い合わせ各課）、②は〒260-8730千葉市教育委員会企画課へ郵送または直接持参。FAX、Eメールも可。

選考方法 書類および面接により選考。結果は全員に通知。

詳しくは、ホームページ（附属機関名で検索）をご覧ください。



二十二、千葉市の公園の歩み

国内の公園の始まりは、明治時代。政府が景勝地などを公園として申し出るようにという布告を発し、全国各地に公園が誕生します。

市内では1874年に、市場町の県庁わきに民衆の散歩場所とし



千葉公園（現羽衣公園）

てつくられた千葉公園（現羽衣公園）がはじまりとされています。その後、1909年に玄鼻山公園（現玄鼻公園）、1933年に荒木山公園（現千葉公園）の建設が始まります。

公園整備が大きく進んだのは、人口が急増した1960～70年代。経済成長の一方で、レジャーやゆとり、環境対策などが求められた時代です。地域ごとに公園がつくられたほか、郊外の豊かな自然環境



生まれ変わりつつある稲毛海浜公園

を生かした泉自然公園（1969年）、埋立前の海岸を人工海浜で再現した稲毛海浜公園（1977年）など、特徴ある大規模公園もこの頃に数多くオープンしました。1967年には53.3haだった公園面積は、2018年には約15倍の787.4haとなりました。

今日では、公園をつくることから活かすことに変化しています。海に沈む夕日を眺められるレストランや森の中のアスレチック、子どもたちが自由に遊べるプレイパーク、地域住民による手づくり公園など、市民や企業などが参画する新しい形の公園が生まれています。

問都市アイデンティティ推進課 ☎245-5660 **FAX**245-5476